

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 24016

建築物名称	(仮称)川崎信用金庫新城支店新築工事
建築主	川崎信用金庫 総務部長 直井 貴幸
建築物の所在地	川崎市中原区新城1丁目200-1
設計者氏名、建築士事務所名	関塚 宏昌 株式会社シスケア 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	5,245.30㎡
用途	老人ホーム、診療所、銀行の支店、自動車車庫、 自転車駐車場
構造	鉄骨造
階数	地上8階
工事完了予定年月	令和8年9月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	太陽光発電

1-1 建物概要

建物名称	(仮称)川崎信用金庫 新城支店 新築工事
建設地	川崎市中原区新城1丁目200-1
用途地域	商業地域、防火地域
地域区分	6地域
建物用途	病院
竣工年	2026年9月 予定
敷地面積	1,235 m ²
建築面積	906 m ²
延床面積	5,245 m ²

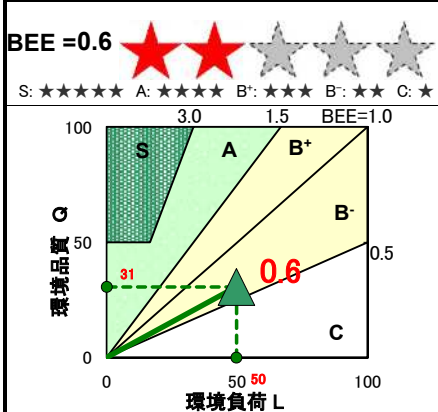
階数	地上8F
構造	S造
平均居住人員	432 人
年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
評価の段階	実施設計段階評価
評価の実施日	2024年5月31日
作成者	関塚宏昌
確認日	2024年5月31日
確認者	生方恭子

1-2 外観

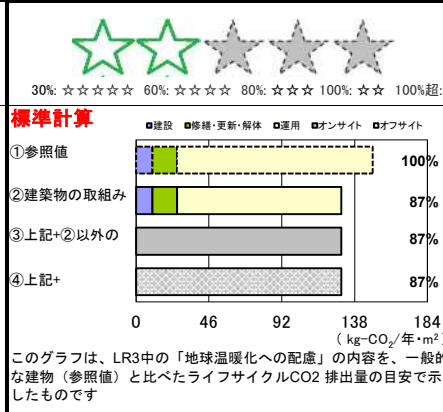
24016

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

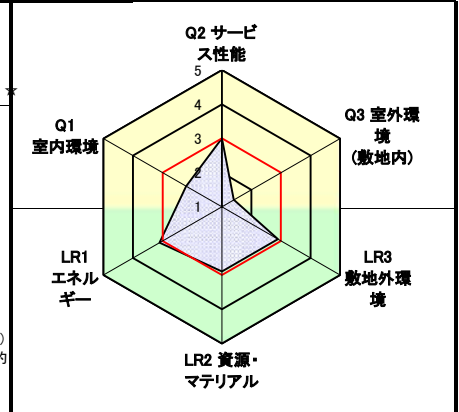
2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



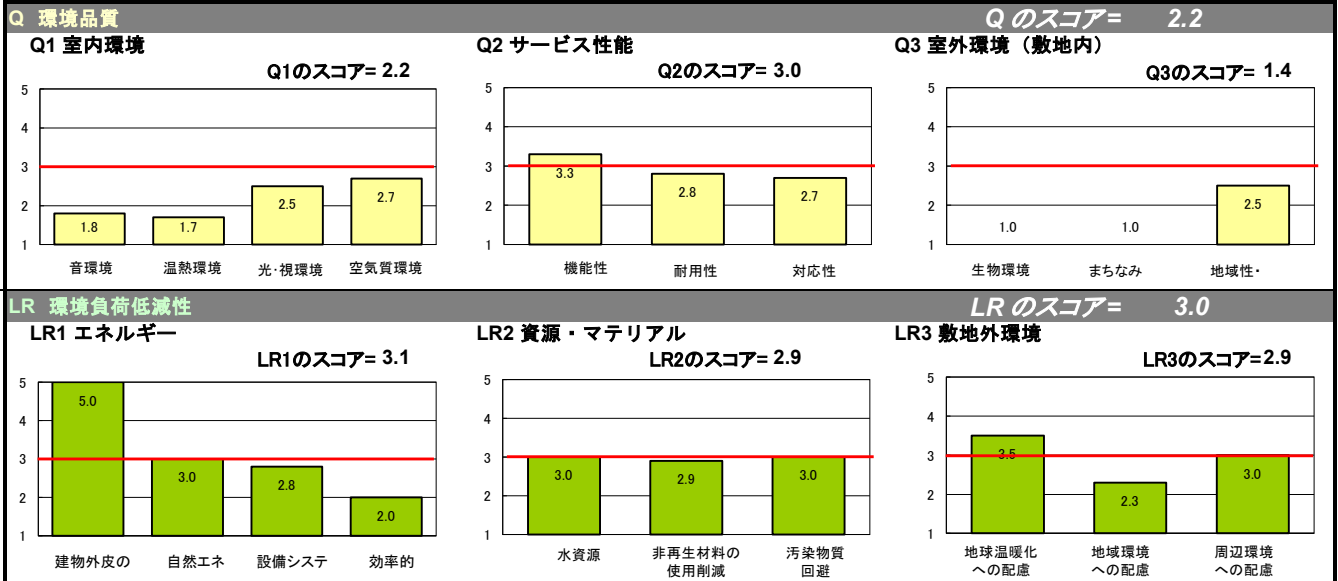
2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)



2-4 中項目の評価 (バーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	1.6
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	商業地域内だが可能な範囲で植栽に努めた 駐車場をピロティ内に設け敷地内にオープンスペースを確保した 地表面に不足な緑化を屋上緑化で補っている	1.0/4.3	1.2
2 まちなみ・景観への配慮			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.4
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能	各部位に断熱材を施工し、良好な温熱環境を計画した	0.7/1.4	2.5
3 3.1 3.1.3 屋光利用設備			
3.2 3.2.1 屋光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	敷地内温熱環境の向上	0.6/2.3	1.3
3 3.2			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	太陽光発電の利用	3.1/5.0	3.1
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	太陽光発電の利用	2.8/4.7	2.9
2 非再生性資源の使用量削減			
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	2.9
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	建築基準法に準じた躯体の劣化対策を行う	0.3/0.5	2.8
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	太陽光発電の利用	2.3/4.0	2.9
2 非再生性資源の使用量削減			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2/0.4	2.8
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.1
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	敷地内温熱環境の向上	0.6/2.3	1.3
3 3.2			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	太陽光発電の利用	3.1/5.0	3.1
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.3**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	建築基準法に準じた躯体の劣化対策を行う	0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用	特に無し	0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	特に無し		
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	太陽光発電の利用	3.1/5.0	3.1
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体
配慮項目		G	W	R	H		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質											
Q1 室内環境											
1 音環境											
1.1 室内騒音レベル											
1.2 遮音											
1.3 吸音											
2 温熱環境											
2.1 室温制御											
2.2 湿度制御											
2.3 空調方式											
3 光・視環境											
3.1 昼光利用											
3.2 グレア対策											
3.3 照度											
3.4 照明制御											
4 空気質環境											
4.1 発生源対策											
4.2 換気											
4.3 運用管理											
Q2 サービス性能											
1 機能性											
1.1 機能性・使いやすさ											
1.2 心理性・快適性											
1.3 維持管理											
2 耐用性・信頼性											
2.1 耐震・免震・制震・制振											
2.2 部品・部材の耐用年数											
2.4 信頼性											

3	対応性・更新性								3.0	0.30	2.0	1.00	2.7
	3.1 空間のゆとり								4.0	0.30	1.0	0.50	
	1 階高のゆとり								4.0	0.60	1.0	0.60	
	2 空間の形状・自由さ								4.0	0.40	1.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり								3.0	0.30	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性								2.4	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性								3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性								1.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性								1.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性								3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性								3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保								3.0	0.20	-	-	
	Q3 室外環境(敷地内)								-	0.30	-	-	1.4
1	生物環境の保全と創出	G	W			H	-		1.0	0.30	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮	G					-		1.0	0.40	-	-	1.0
3	地域性・アメニティへの配慮								2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上								3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	G	W			H	-		2.0	0.50	-	-	
	LR 建築物の環境負荷低減性								-	-	-	-	3.0
	LR1 エネルギー								-	0.40	-	-	3.1
1	建物外皮の熱負荷抑制		W			H	BPI _m =0.69		5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		W			H	-		3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		W			H	-		2.8	0.50	-	-	2.8
4	効率的運用								2.0	0.20	-	-	2.0
	集合住宅以外の評価								2.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング		W			H	-		3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制		W			H	-		1.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価								3.0	-	-	-	
	4.1 モニタリング		W			H	-		3.0	-	-	-	
	4.2 運用管理体制		W			H	-		3.0	-	-	-	
	LR2 資源・マテリアル								-	0.30	-	-	2.9
1	水資源保護		W			R			3.0	0.20	-	-	3.0
	1.1 節水								3.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用								3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無								3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無								3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減								2.9	0.60	-	-	2.9
	2.1 材料使用量の削減		W			R			2.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		W			R			3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		W			R			3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		W			R			3.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		W			R			3.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		W			R			3.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避								3.0	0.20	-	-	3.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用						確認していない		3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避								3.0	0.70	-	-	
	1 消火剤		W				-		-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)		W				-		3.0	0.50	-	-	
	3 冷媒		W				CO2冷媒冷凍機		3.0	0.50	-	-	
	LR3 敷地外環境								-	0.30	-	-	2.9
1	地球温暖化への配慮		W						3.5	0.33	-	-	3.5
2	地域環境への配慮								2.3	0.33	-	-	2.3
	2.1 大気汚染防止								3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	G	W			H			2.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制								2.5	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減					R			3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制					R			3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制					R			2.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制					R			2.0	0.25	-	-	
	3 周辺環境への配慮								3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止								3.0	0.40	-	-	
	1 騒音								3.0	1.00	-	-	
	2 振動								-	-	-	-	
	3 悪臭								-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制								3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制								3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制								3.0	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制						日影規制なし		3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制								3.0	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						広告物照明を行わない		3.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策								3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	2.0		○	-	○	-	○	-	○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	3.0		○	-	-	-	-	-	-	○	-	○			
1.3.2 維持管理用機能の確保	4.0		-	-	-	-	○	○	○	-	○	-		-	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-						
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-						
2.4.3 電気設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-						
2.4.5 通信・情報設備	1.0		○	-	-	-	-	-	-						
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	2.0		-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	5.0		-	-	3.0	-	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	1.0		-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	1.0		-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC0.5 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム 4.0 屋根 2.0 外壁 2.0 床 2.0 住戸部分システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -
3.1.1 昼光率	昼光率 8.9%, 1.7%
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口率 3.3%
Q2 サービス性能	
1.1.1.1 広さ・収納性	執務スペース 4.8㎡/人 病床 .0㎡/床 シングル 18.0㎡ ツイン 36.0㎡
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 30.0 VA/㎡
1.2.1 広さ感・景観	天井高 2.4m m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 25 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 20 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 20 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 15 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 3.75 m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 25.5%
3.2 荷重のゆとり	床荷重 - N/m2
Q3 室外環境(敷地内)	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 12% 建物緑化指数 9%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 26% 水平投影面積率 41% 地表面対策面積率 3% 舗装面積率 0%
LR1 エネルギー	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI _m 0.69 熱等性能等級 等級2 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 80.0% 採光を満たす住戸数 80.0% 通風を満たす教室数 80.0% 通風を満たす住戸数 80.0%
3 設備システムの高効率化	BPI/BPI _m 非住宅 0.84 住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW
LR2 資源・マテリアル	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品E - エコマーク商品 ビニル系床材 自治体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 5.0%
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(CFC) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(CFC) 0 地球温暖化係数(GWP) 1430
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(CFC) 0 地球温暖化係数(GWP) 8
LR3 敷地外環境	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 95% 棟間隔指標Rw - 地表面対策面積率 3.0% 屋根面対策面積率 #DIV/0! 外壁面対策面積率 #DIV/0! 見付面積Sb 1,342㎡ 1.越風向と直交する最大敷地幅Ws 50.9 m 基準高さHb 27.49 m 緑地 127㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡